# 北九州テレビ<u>Internet TV</u> NEWS

http://www.kitakyu.tv DIGEST

お問合せ:info@kitakyu.tv c 北九州テレビ 2005:新聞事業部

2005.12.30 第

10号

### 北九州市内ではただ1校

# 北九州市立枝光台中学校

地域と共に築いた20年の「餅つき大会」

# ぁゎせて−森尾和貴氏講演:進路を考える

# 同時開催!

さる11月27日、北九州市八幡東区枝光の北九州市立枝光台

地域の方より「餅つき」の指導を受ける1・2年生

中学校において、地域主体で行われる「餅つき大会」および、「第 74 回 全国 高校野球選手権大会 で優勝した森尾和貴氏(現:新日本製鐵㈱八幡製鐵所) による進路について考える講演会」が開催された。



1・2年生から3年生への「餅」の贈呈式

同中学校は、枝光北中学校と枝光中学校が平成 13 年 4 月に統合し、新たに枝光台中学校として発足したもので、"餅つき大会"は枝光北中学校の時から引き継がれて今回でおよそ 20 回を迎えたものである。



「地域の中の学校」であると語る大峯校長

上記、催しを行った**大峯一純校長**は、「この餅つき大会は、学校主催ではなく、地域の方々(青少年育成会)に全てのお世話をいただいて行われているもので、大会前、中学校に地域の方がお見えになり会議を行う。そし

が共同で"餅つき大会"を実施しているケースは沢山あるが、地域の青

て、今年はどのような段取りで行うかなど、地域主体で協議し準備に入る。

その後、学校へは地域の方々から『これをして下さい、これを用意して下さい』、などの協力依頼があり餅つき 大会が行われる。だから、主体は、あくまでも地域ということである。通常、学校だけで行うとか、学校とPTA



3年生に、語る森尾氏

少年育成会が主催し、主管して、総合的な学習の時間のなかで在校の1・2年生が受験を控えた3年生に、餅を贈り激励するための"餅つき大会"を催す中学校は市内63中学校の中にはおそらくない。このように、『地域のなかの学校』ということを、

ありありとうたえるような行事を行 える学校はありがたいし、なかなか



森尾氏の話を真剣に聞き入る生徒達

#### 森尾和貴(新日本製鐵㈱八幡製鐵所生産業務部工程



第74回全国高校野球大会で力投する森尾氏

調整グループ) 氏は、講演にお **いて**「中学校3 年生は、人生の 初めての選択が 迫られる時であ る。その時一番 必要なことは、 まず将来どのよ うな職に就きた いのか、そして、 どのような事を やりたいのか、 そこで決める

のが第一の進

路の選択になると思う。今現在、すでに目標を持って いる子もいるが、まだ将来何をしたいのか決めかねて いる生徒達に、とにかくどのようなことでも良いので、 何かやってみたいことを探す一助になるような話しを することに心がけた。また、私も今までの人生で苦し かったこと、どのようなことを考えて小学生から社会 人まで野球をやってきたか、そして、高校野球をやっ ていた時の平成4年に行われた『第74回 夏の甲子園 大会』で優勝した事など」を参考に講話を行った。講 話後、森尾氏は、「以前、北九州市内の別の中学校で も講演を行ったことがあるが、今回も中学3年生の



深紅の大優勝旗とともに全員で記念撮影を行う部員達



高校 JAPAN の宿舎にて(右:森尾和貴氏 中央下:松井秀喜氏)

子供達が、"将来に向けて何か目標を持たなければならないということが大事である"という話しに対して真剣に、 且つ興味深げに聞いていた表情をみると、お話しができたことが本当に良かったと思うし、今後、私の話しで少し でも子供達の役に立つことができ、そして、そのような依頼があれば積極的に力になっていきたい」と語った。



都市対抗野球九州地区予選(対ホンダ戦):新大分球場

山本登教務主任は、「小・中学生にとって今の時期は、 一番いろいろなものを吸収しやすい時期であり"森尾 さんの話"や、現在、北九州市と新日本製鐵㈱八幡製

鐵所が共催で行っ ている"たたら製 鉄"などの経験は とても大事な事だ と思う。そして、 頑張っている先人 の話を聞いたり見 たりして、(すご

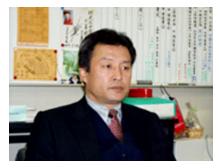


仕事中の森尾氏(八幡製鐵所内)

いなー!)で終わることなく、その思いを持続し忘れないことが成長につながると思う。これからは学校だけで子ども達を育てていくという時代ではない。森尾さんの講演と同時に行われている"餅つき大会"のように地域と学校が一体となって子ども達を育てていくことは、本当に大事な活動である」と語った。

また、餅つき大会に参加し消防団で活躍している**木村英二氏**は、「毎年、中学校で行われている餅つきに参加しているが、12月は地域内において消防団の餅つきも行われ、ここの餅つき大会と併せて2回の餅つきを行っている。ここの中学校は、1・2年生が先輩のために汗を流す、とても粋なことだと思う。そのような気持ちに感動して、毎年少しでも手伝う事ができればと思い、この餅つき大会には当初より参加している。先輩のために、餅をついている時の、1・2年生の顔は、素晴らしいじゃないですか。すてたもんじゃないですよ!」と語った。

森尾和貴氏講演について大峯校長は、「今回の森尾さんの講演は、"在校3年生が2年生の時からぜひ森尾さんの話を聞きたい"という1年越しの願いがやっとその実ったもので"日曜学習参観"と"餅つき大会"の日に行うことができた。 森尾さんは、「第74回全国高校野球選手権大会」において優勝し福岡県勢では、昭和40年に三池



森尾氏は、大変実直で誠実で あると語る大峯校長

工業が優勝して以来 27 年ぶりに偉業を成し遂げた方。そのような方が今までに歩んでこられた道、たとえば八女西中学校卒業後なぜ、西日本短大付属高校に進んだのか、そして、なぜプロに行かず社会人野球に進んだのかなどを聞くだけで生徒たちは感銘を受けたと思う。森尾さんはまじめな方で、たとえば、『子どもの時の自分は、子どもらしく本当にこのように感じていたから、この道を行きました。と率直に話すなど』決して飾ることなく、大変実直で誠実な方であると感じた。講話後の生徒たちの感想文を読んでも生徒たちがそれをよく感じとっていることがわかった。貴重なお話をいただきました」と語った。

生徒の感想は、(K君)「高校生になって自分がどのような人生を歩んでい

くか分からないが、森尾さんの話は将来絶対思い出すと思う。そして、役に立つことだと思う。どのような人でも目標を持って、それに向かって努力することが大切であるということがよくわかりました」(**Nさん**)「森尾さんの座右の銘である『努力しなければ、栄光は、つかめない』という言葉を胸に秘めておこう。そして、森尾さんのように夢を諦めない。そのような人になりたい」(**F君**)「努力に勝るものはない。この言葉の持つ意味がわかった。

N Y ヤンキースの松井秀喜さんは、影では沢山の練習をしている。僕も全ての面で努力できるようになりたい」( T さん)「森尾さんの話は、実体験なのでとても役にたつと思った。また、自分の学力にあった高校の選択もいいが、将来を見つめた高校の選択が重要だと思った。今回の講演が聞けて本当によかった」(Nさん)「森尾さんの小さな頃からの『一つの夢』を目標に、何事にも頑張る姿に感動した。きつく厳しい練習に耐えてきたからこそつかめた『全国制覇』はスゴイし、あの地で歌う校歌は最高だったであろうと感じた。そして、『努力をしなければ栄光はつかめない』という言葉を忘れずに頑張ろうと思った」(F 君)「森尾さんは、沢山『努力』という言葉をつかって



甲子園で胸を張って行進する部員達

いて、やはり『努力』は大切で、『努力』をすれば結果が生まれるということも、森尾さんの話でわかりました。これからの人生、色々な場面に遭遇すると思うので『努力』と言う言葉を忘れずに生活していこうと思った」(O さん)「成功するために『努力』は絶対にかかせないもの、しかし、成功できなくてもその『努力』は自分の自信につながるものだとわかりました。進路を決めなければならない時期に、正直自分はまだなんの『努力』もしていないことに改めて気付かされ、『頑張らなければ』と思うことができました。自分に一番合う進路を選択して『努力』すればきっと自分にとってすごい自信になると思いました』。